

# 外国人市民による日本語スピーチコンテスト

毎年開いている「外国人市民による日本語スピーチコンテスト」を2月8日(土)、川崎市国際交流センターのホールで催しました。「第30回」という節目の今回は、10か国から16名の外国人の皆さんが出演。会社勤めやアルバイト、学生生活をする中で気づいたことや考えたことを日本語でスピーチしました。審査の結果、最優秀賞は金永彬さん(韓国)、川崎商工会議所会頭賞はクム・ソダリンさん(カンボジア)と決まり、インタビューを受けました。

宮下しのぶ審査委員長((公社)国際日本語普及協会常務理事)は「(日本人の)私たちがあまり気づかない日本の文化や習慣に意見を述べてくださる方もいました。最優秀賞を選ぶのはたいへんでした」と講評し、出場者の労をねぎらいました。

## 上位2名の受賞者へ、インタビュー

### 質問

- ①日本語スピーチコンテストに参加した理由
- ②テーマを選んだ理由と伝えたかったこと
- ③スピーチをした感想
- ④将来の夢や今後の目標について



### 最優秀賞

**金永彬さん**  
【大韓民国出身】

- ①今まで勉強してきた日本語を聞いてもらいたいと思って参加しました。
  - ②最近イメチェンをして、周りの友達から「チャライ」と言われたので、「私はチャライ人ではありません!」と伝えたくて、今回のテーマに選びました。
  - ③最優秀賞をもらえるなんて思ってもいませんでした。うれしい気持ちです。日本語が上達したのは日本の方々のおかげで、感謝しています。また、学校の先生方にも感謝です。(みなさん)忘れなでください、私がチャライ人ではないことを!
  - ④これからも日本に住みたい。日本語の勉強を続けますし、就活もやります。目標は……、まだ見つけていません。
- ◎怪我した後、内緒で始めたスケートボードのことをお母さんに打ち明けたそうですが、最優秀賞を受賞した今は何を伝えたいですか?  
お母さん、これからも怪我をしないように気をつけてスケートボードを続けます。見といてね!
- ◎スピーチ中に腕を組むといったジェスチャーも入れていましたね。  
たくさん練習をされたのでは?  
いえ、時間が足りなくて、だから一日で覚えて「あとは何とかなる!」と自分を信じることにしました。
- ◎応援に来てくれた人々に一言  
力になりました。来てくれて「ありがとう!」しかない。期待に応えられるよう、これからも友達で!よろしく!

### スピーチ概要

#### 「私はチャライ人ではありません」

スケートボードは危ない、スケートボードが好きな人はチャライ人、やることはないと思っていました。その私がnew jeansで変わりました。私は以前からこのK-POPのグループが大好きで、日本に来てからはメンバーが着たスケートボードのブランドの服を着て、スケートボードにも興味がわき、練習が面白くなり、怪我もしましたが、練習を再開しました。

スケートボードは、軽いイメージではなく、達成感を得るためのものだと考え、スケートボードが好きになりました。韓国でも日本でもスケートボードはあまりよくないと思われていますが、私はマナーを守って、みんなの意識を変えたいです。

### スピーチを聞いて、取材して一言

これからはスケートボードに、また他のことに「挑戦し、困難を克服し、そして達成感をえるストーリー」を積み重ねられることで、きっと人生の目標が見つかることでしょう。なぜなら金さんは決して「チャライないから!」。スピーチを通して、「チャライ」といった先入観を持たないことが「人と人との交流の原点」と教えていただきました。(取材・文:編集ボランティア 正一 努)



### 川崎商工会議所会頭賞

**クム ソダリンさん**  
【カンボジア王国出身】

- ①人前で話すことが苦手でいつも緊張してしまう。そんな自分の弱点をなくすためにもあえてコンテストに出てみようと思いました。
  - ②勉強してきた日本語を使って、自分自身を自然に表現してみたかったのでこのテーマにしました。
  - ③今日も緊張してとても怖かったのですが、今は無事に終わってホッとしています。賞も頂いたのでとてもうれしい。先生、友達、家族にも感謝しています。
  - ④日本語能力検定試験のN2に合格して大学を卒業すること。そして日本の大学院でもっとも勉強してみたいです。
- ◎日本語の難しいところは?  
文法がとても難しいです。カンボジア語には助詞というものはありません。主語と述語と目的語を並べれば言いたいことは伝わります。助詞の使い方は今も迷ってしまいます。漢字の読み書きも難しいけれど、一所懸命勉強しています。
- ◎日本の生活はどうですか?  
大学の寮に住んでいますが、いろいろな国の人たちと交流できて、毎日がとても楽しいです。
- ◎日本の良いところ、母国の良いところは?  
先日、旅行で京都に行きました。歴史を感じてすごくいいなあと思いました。一方、カンボジアは人がすごく親しみやすく優しいです。それが私の国のいいところです。

### スピーチ概要

#### 「私の一番怖いこと」

「うわああ、緊張する、どうしよう?」すみません、突然叫んでしまいました。でも、緊張したときには、我慢するより口に出したほうが楽になると言われています。……やってみても、やっぱり、まだ緊張しています。私が一番怖いのは、多くの人の前で話すことです。中学校のとき、英語の授業でスピーチがありました。スピーチの前、心臓が飛び出しそうなほどドキドキしていました。では、大人になった今の私はどうでしょうか。実は、まだ怖いんです。ほかにも怖いことがたくさんあります。もし皆さんが「怖い」と感じていることがあるなら、その気持ちを大切にしてください。それは、次の挑戦に進むためのサインだからです。

### スピーチを聞いて、取材して一言

開口一番、「うわああ緊張する、どうしよう?」の叫びとともに始まったクムさんのスピーチ。生き生きと表情豊かに話してくれたので、あっという間の5分間でした。外国での生活や新しい環境への適応なども「怖い」と感じながらもチャレンジしていく姿を見て、エールを送りたくなりました。(取材・文:編集ボランティア 岡崎 章)



川崎ライオンズクラブ優秀賞

ライ ティ ジュエンさん  
【ベトナム社会主義共和国】



「縁」

日本人はよく「ご縁があったらまた会いましょう」と言いますね。私の名前にはその「縁」という意味があります。当時、小さかった私は、父が教えてくれた名前の意味がわかりませんでした。20年後、その日の父の言葉がわかってきました。金子みすゞさんの詩を初めて読み「みんな違ってみんないい」、この言葉が元気をくれ、自分の価値観がいい方向に変わりました。しかし、悪い人や嬉しくないことに出逢う時は「ご縁がなかった」と気持ちを切り替えます。縁は異なるもの味なもの。それらの経験から何かを学び、思い出ができ、成長することができます。これからも自分の名前、ご縁を大事にしたいと思います。



努力賞

ウェイ ミヤツ モンさん  
【ミャンマー連邦共和国】



「未来のウェイへ、今、私は頑張っています」

母国で建築設計の仕事をする中で、日本の高度な技術に関心を持ち、日本の建築会社に就職しました。1年過ぎた時に新型コロナウイルスに感染し、ひとり暮らしが心細くて帰国を決意しました。しかし、ミャンマーは政治情勢が不安定なため、両親は心配し、帰国前に家族でバンコク旅行をしました。その時の8年間会っていなかった弟の言葉を思い出します。「お姉ちゃん、どんなことがあっても諦めないで、自分が選んだ道を歩いてほしい。未来のお姉ちゃんは、すごく頑張った過去のお姉ちゃんに感謝するはず」と応援してくれました。私は前を向いて歩きます。



努力賞

グエン コン キエンさん  
【ベトナム社会主義共和国】



「瞬間」

忘れられない「瞬間」がいくつかあります。まず困った「瞬間」。来日して間もないころ、電車に乗って網棚にバッグを置きました。すると中のコーヒーがポタリ、ポタリと落ちてきたのです。4人の服を汚してしまいました。次は恥ずかしい「瞬間」。お店でお金を払う時に「現金ですか」と聞かれたので、「はい、元氣です」とこたえました。幸々を感じた「瞬間」は、日本語の試験に再挑戦して合格した時。試験会場に向かう途中で電車を乗り間違えましたが、私を助けてくれた人のおかげで時間に間に合いました。一期一会。そんな「瞬間」は忘れられません。



努力賞

サブコタ ディバスさん  
【ネパール王国】



「私の高校生活」

中学2年の10月に日本に来ました。日本で働きたいと思いましたが、どうしていいかわからないときに参加した高校進学ガイダンスで、横浜翠嵐高校定時制のことを知りました。入学後に入ったバレーボール部では、たくさんの方の国の人がありました。勉強してきた日本語を使って、楽しくプレーしました。遠足などの学校行事も、生きた日本語を学べるいい機会でした。日本語を話すことは、まだまだ難しいです。でも、勇気を出して日本語を話すと、多くの方は真剣に聞いてメッセージを返してくれます。4月から船を造る会社で働くことが決まりました。みんなのおかげで、私は生きるための大事な知識とたくさん思い出を手に入れることができました。



川崎市国際交流協会優秀賞

アブドゥラエウ ナウル ザホンさん  
【ウズベキスタン共和国】



「心から願った夢はかないますよ」

子どもの時、テレビで「アンパンマン」というアニメや日本のドラマを見ていました。きれいな日本の文化に興味を持ち、日本に行くという夢が生まれました。しかし、私の国では女性は早く結婚し、子どもを産む必要があるとされています。私は17歳で結婚し、2人の子を産みました。ある日、インターネットで「日本で働く」という情報を見つけ、眠っていた夢が目覚めました。夫から日本に行くことの許可を得て、秋に日本に来ました。でも、子どもと離れているのは寂しい。今の私は新しい夢を持っています。それは自分の国で日本語の先生になることです。

第30回

# 外国人市民 日本語スピー

## 出場者全員のスピーチ

コンテストは、日本語が上手かどうかということだけでなく、内容が大事。抱いていた不安や、日本に来たことを後悔して帰国まで考えたこと、辛く日本人に助けられた話など、聞く人の心に響くエピソードがたくさんあり



努力賞

カナル スリジャナさん  
【ネパール王国】



「後悔しない私の日本生活」

日本語の勉強は難しいですね。アルバイトしないと生活できません。離れている父母に会えなくて、来日を後悔している人もいるかもしれませんが、私もそんな気持ちになったことがあり、来日前に日本語をしっかりと勉強しなかった自分にも後悔しました。それで頑張っていることが二つあります。1、漢字の勉強でノートに何回も何回も書いています。2、話す練習、シャドーイングです。ネパールで何もできなかった私が今、日本でお金を稼ぎながら勉強して生活しています。留学は自分を成長させる大きな機会だと思っています。私は、日本で成功するために後悔しないよう、頑張りたいと思います。



努力賞

俵 佳さん  
【中華人民共和国】



「働くおじいちゃん、おばあちゃんが教えてくれたこと」

日本に来て1年半。私にとって新鮮だったのは、働くおじいちゃん、おばあちゃんが多いことです。スーパーでレジをしているのはおばあちゃん、駅から家までタクシーに乗った時の運転手さんもおじいちゃんでした。中国の都市に住むお年寄りの多くは、退職後も十分な年金をもらえるため働く必要がなく、私の母は朝、広場でダンス、午後はカラオケです。私のアルバイト先のおじいさんに「うらやましくありませんか」と聞くと、答えは「私は働くほうがいい」でした。日本の高齢者は社会とのつながりを楽しんでいるように見えます。すばらしいと思います。私は将来、日本のおじいちゃんおばあちゃんのように健康でいきいきと働き、楽しく生活したいと思います。



川崎ライオンズクラブ特別賞

アムルフさん  
【中華人民共和国】



「日本で民族文化に基づく多様性について」

私は中国・内モンゴル自治区出身のモンゴル族です。中国では私たちは「少数民族」と呼ばれますが、内モンゴル自治区ではいろんな民族がともに暮らすのが当たり前で、お互いの伝統を尊重しあっています。私のフルネームには姓と名の区別がなく、「姓」がないため日本に来て困難に直面しました。銀行口座を開設する際、姓と名を分けて記入することを求められ、3時間も待たされてようやく口座を取得できました。自分と異なる文化とか「姓」を持たない名前は、かつては理解されませんでした。今では尊重されるようになりつつあります。多民族が共に文化を育んでいくことが社会の豊かさにつながると感じています。

川崎市国際交流協会特別賞

栗 聡さん  
【中華人民共和国】



「日本の山に魅せられて」

日本に来てから好きになったことの1つが登山です。中国でも登山は人気がありますが、登山道が石段になっていて、日本のように自然を楽しみながら歩くことはあまりありません。秋に長野県の山に行った時、林道を4時間登ると富士山と青空が一体となったような絶景が広がり、紅葉も鮮やかで感動しました。山岳信仰も日本の山の魅力の1つ。登山道には石仏や祠、鳥居などがあって、山に神がいることを実感できます。富士山には2021年からこれまでに5回登りました。これからも登山を続け、いつかエベレストにも挑戦してみたいです。

# による 一チコンテスト

## の概要をご紹介します

です。日本に来る前にも頑張っている話、しました。

司会の池 塚伊さん  
(韓国出身)。  
川崎市国際交流協会の登録ボランティアです。



努力賞

林 祐韓さん  
【台湾】



「コンフォートゾーンを抜け出す」

コンフォートゾーンを抜け出すとはどういう意味か、わかりますか?居心地の良い場所から一歩踏み出すことです。苦手なことに挑戦したり、新しい環境を克服したり、成長を求めて行動することです。私もいろいろなことにチャレンジします。台湾で「日本」といえば、みんな富士山を思い浮かべます。私も友達を誘って富士山を見に行きました。帰りがけに友達が「富士山に登ることができるぞうだ」と言いました。もし富士山の山頂まで登れたなら一番の思い出になります。日本にいるうちに必ずこの目標を達成します。いろんなことに挑戦したいです。このコンテスト出場こそ新しいことに挑戦することであり、コンフォートゾーンを抜け出す第一歩だと思っています。

努力賞

任 家芳さん  
【中華人民共和国】



「世界に愛」

4年前、私と娘は日本にいる家族に会うため、2週間の予定で上海から来ましたが、新型コロナウイルスの流行で帰国できず、日本に住むことになりました。私も娘も不安でしたが、「既来之則安之」(「論語」、こうなった以上受け入れよう)と思い、娘の入学などの手続きで区役所と小学校に行くことにしました。私たちの状況を知った先生やクラスメートが励ましてくれ、娘は前進できました。中学校選びの際も、塾と国際交流センターの先生方のサポートで、第一志望に入学できました。私は、日本に住む外国人として、日本語や文化や生活習慣の違いを学び、友愛を深く感じ、世界に愛があることを実感しました。

努力賞

フヤンヒシグ エングジンさん  
【モンゴル国】



「褒める文化」

皆さんは、誰かに褒められた時、普段よりテンションが上がって、温かい気持ちになりませんか。日本での最初のアルバイト先で、日本語が良く理解できなかった時に、アルバイト先の先輩が「良く頑張っているね」と言ってくれました。それと、デパートの店員さんがお客様に対して、「この色はよく似合いですね、とてもセンスがよろしいですね」と褒めていました。それが、日本の日常の褒める文化です。祖国のモンゴルでは見かけませんでした。褒める文化は相手の信頼を高め、良好な関係を作ることができると思います。また、日本では年齢や性別を問わず、会話をすると敬語を使うことが多いです。

努力賞

ホルガド ジョナサン レイさん  
【フィリピン共和国】



「まあ、いいか!」

私は、日本のIT会社で忙しく働いています。ある日、仕事の締切に間に合わないことに気づいて、すぐ上司に相談したら、彼は「まあ、いいか」と言い、お客様に状況を説明し、対応策を提案しました。幸い、お客様は冷静に受け入れてくださって、私は本当に驚き、ほっとしました。上司は言いました。「物事が計画通りに進まない時、自分を責めるのではなく『まあ、いいか』と心を軽くすることが大切なんだよ」と。その時、私は「まあいいか」は無関心や諦めではなく、むしろ状況に向き合うための余裕を与えてくれる言葉だと気づいたので。その後も私は、このシンプルな言葉に何度も助けられてきました。

(スピーチ概要の作成: 編集ボランティア 内田美加、川口俊樹、リード文: 川口俊樹、写真撮影: 編集ボランティア 松波陽介)